

No.2055



教育ルネサンス フリースクール 4

安心できる自由な居場所

子どもたちが自由に過ごせる居場所がある。

川崎市の「フリースペースえん」には、不登校や引きこもり、発達障害の人ら、小中高生を中心に約110人が登録する。好きな時間に来て、好きなことをして過ごす場所だ。市が2003年に設置し、NPO法人「フリースペースたまりば」が管理・運営する公設民営形式の施設で、利用は無料だ。

時間割やカリキュラムはないが、昼食は有志で作り、家族のように食卓を囲む。5月下旬、子どもらとスタッフが一緒にタンドリーチキンを焼き、生地をこねてナンを作り、屋外で食べた。「皿を並べるだけでも自分が役立ったと感じられるし、みんな食べれば一人じゃないと

思える」とNPO法人理事長の西野博之さん(55)。

平日の午前10時半から午後6時(火曜日は午後2時)まで利用できる。ピアノを弾いたり、ゲ



「えん」の特徴だ(川崎市で)

「フリースペースえん」での過ごし方

- 毎日(平日)** 子どもたちとスタッフで昼食づくり。1食250円。カリキュラムはなく、勉強やスポーツ、ゲームなどをする
- 週3~4回** 俳優による演劇講座や元小学校教員による理科実験の講座など
- 週2回** スタッフやボランティアが講師になって勉強会を開催
- 随時** 子どもらが提案する自主企画。野球大会や演奏会、ロッククライミングなど
- 年2回** 夏は八丈島でキャンプ、冬は山形でスキー合宿

ームをしたり、どう過ごすかは自分で決める。元小学校教員による理科実験の講座などが週3~4回、スタッフやボランティアによる勉強会が週2回開かれ

る。参加するかどうかは自由で、子どもらがミーティングでやりたいことを提案する場合もある。

学校でいじめを受けて半年前に不登校になったと話す中学2年の横山来未さん(14)は「スタッフが悩みを聞いてくれるし、『大丈夫?』と声を掛けてくれる。もう一つの家のよう」。講座などで演劇を体験し、「声優になりたい」という将来の夢もできた。

転校した学校になじめず、中学1年で不登校になった齋木珠丞君(15)は3年近く「えん」に通い、今春、通信制高校に入學。「自由なところがよかった。将来はスクールカウンセラーになって不登校の子を助きたい」。泥遊びや穴掘り、たき火などができる約1万平方メートルの川崎市子ども夢パーク内にあり、広大な公園には、地域の子どもたちが放課後、遊びにやってくる。「えん」に通う子どもたちも外

で自由に遊び、交流が生まれている。

塾講師などをしていた西野さんが、別の場所でフリースペースを始めたのは1991年。2人の子ともと出会ったのがきっかけだった。小学1年の男児は入学を楽しみにしていたのに5月の連休頃から体に変調をきたし、学校に行けなくなった。最初の階段を踏み外したと絶望し、「僕、もう大人になれない」と訴えた。不登校だった中学2年の女子生徒は、思い悩んだ母親との無理心中に巻き込まれそうになった。

「勉強どころではない子どももいる。まず安心できる環境を用意することが大事」。遊んだことに批判もあったが、居場所作りを優先。やがて、子ども自身が欲を持ち、学び始める姿を見えた。だから、フリースクールではなく、あえて、フリースペースと名乗っている。